

学校法人瓜生山学園教職員総会挨拶

(当日の挨拶に大幅に書き足したものです。)

2016年1月6日

尾池和夫

明けましておめでとうございます。今年も皆様が、何よりも健康に気をつけて、教育と研究と社会貢献のために励む年になることを祈っております。

今年は2016年、丙申の年です。十干の丙は陽の火、十二支の申は陽の金で、相剋（火剋金）の年です。五行（金、水、木、火、土）は宇宙の万物の基本的構成要素と信じられており、この知識を使って幸運を最大限に、不運を最小限にすることができると言われる。

東洋の思想を基に見ると、丙申の組み合わせは、五行では火（か）と金（きん）、五色では赤と白、五方では南と西、五時では夏と秋、五獣では朱雀あるいは赤竜と白虎あるいは白竜、五常では礼と義に対応します。

丙は火の性、照り輝く太陽や熱い炎を表します。申は金の性、金属、鉱物を表します。丙申は金が火に溶かされる激しい変化を象徴するのですが、地中深くマグマの熱がさまざまな鉱物資源を生み出し、火に溶かされた鉄は刃物や農具となって役立ちます。火と金の強い力が作用しあって、力強く前に進む年であることを私は願っています。

60年前の1956年には、スエズ危機、第二次中東戦争、ハンガリー事件など、紛争や戦争の年でしたが、一方ではエンターテイメントの年でもありました。エルヴィス・プレスリー「ハートブレイク・ホテル」で大ヒットし、マリリン・モンローが改名し、ドリス・デイが「ケ・セラ・セラ」をレコーディングしました。また、日本が国際連合に加盟しました。

1896年には明治三陸大津波で2万名の死者が出ました。第1回夏季オリンピックがアテネで開催されました。

1836年には、アラモの戦いで、テキサスがメキシコから独立を宣言しました。

1776年には、アメリカ独立戦争があり、アメリカ独立宣言が発表されました。

さて、今年はどのような年になるのでしょうか。また、瓜生山学園にとってどのような年となすべきか、1人ひとりで考えてみていただきたいと思います。とくに今年入学してくる18歳の学生たちは選挙権を持つことになっており、夏には選挙に参加します。そのことも忘れずに私たちは教育現場に臨まなければなりません。

新年を迎えるにあたって、私は1年を振り返ってみました。初詣には東京の松陰神社に行きました。学園の創立者である故徳山詳直さんを忍んで、1月6日の教職員総会では、「明けましておめでとう」の言葉がありませんでした。しかし、新理事長、徳山豊さんの慎重でかつ力強いリーダーシップのもと、学園の新たな発展が始まっていることは、皆さま

方ご承知の通りであります。

1月17日には、阪神・淡路大震災から20年で、私は毎日放送で解説しました。2月2日、京都大学の記者クラブでマンガ学科の学生たちが記者会見し、2月9日から漫画履歴書展を開催しました。会場には、舞妓さんも芸妓さんも京都市長も、さまざまの人たちが来られました。3月20日（金）には山本大臣に日本学術会議の見直しに関する報告書を手渡しました。4月24日、留学生歓迎会で鮎の解体ショーを見せ、大量の鮎を学生たちが完食しました。8月16日、大文字送り火の前に希望館で井上八千代さんの鎮魂舞が舞われました。

8月18日から内モンゴルへ出かけ、大草原とジオパークを見ることができました。同時に私の本の中国語訳が出版されたのを受け取りました。9月5日、瓜生山同窓会兵庫県支部の発足祝賀会がありました。9月17日から、山陰海岸ジオパークで開催されたアジア太平洋ジオパーク会議の実行委委員長をつとめました。

9月24日、カフェがきれいになり、川端さんに感謝状を差し上げました。10月25日、コミュニケーション入学開講式に660名が参加しましたが、学生代表お宮浦奈央子さんの「在学生からのメッセージ」に感銘を受けました。10月27日（火）開学記念日に献花し、韓国からの留学生のアンバサダ認証式を行いました。これからの活躍が期待されます。11月3日には、東北芸術工科大学から来訪した5名の学生をの昼食会で、田中勝先生、本間正人先生と会食して大いに話しが弾みました。

なんと言っても学生、卒業生、教員たちの作品を見るということが私にとって重要です。この1年にも、多くの作品に接する機会があり感謝しています。2015年2月7日（土）には、みやこメッセで京都芸術デザイン専門学校の卒業展、2月22日からは通学部の論文発表や卒業制作を見てまわりました。またこの日、60名の学生が参加した福岡監督の映画『正しく生きる』が上映されました。2月24日の舞台芸術の田中さんたちの舞台を見ました。

3月7日には通信教育部の卒業展で学長賞を3つ選びましたが、今回は学長奨励賞を特別に1つ加えました。3月31日には、パラソフィア2015で京都市美術館に行きました。4月20日、長谷川等伯の屏風を記者発表しました。記者会見の挨拶で、出すのが惜しい、学生たちに見せたいと話しました。7月19日、やなぎみわさんの『ゼロアワー』を見ました。衣装、メイク、演技がすごい、涙が出ない舞台でした。

7月10日（金）細見美術館で陶芸家の近藤高弘さんと山本太郎さん、名和晃平さんの琳派四〇〇年古今展を面白く拝見しました。7月24日、パリの宝石会社であるヴァンクリーフ&アーペルに6名の学生が招待されました。7月30日、青山のスパイラルガーデンで2014年度卒業生選抜展が開催され、大和美緒さんの作品に感銘を受けて、その後、9月14日に京都大学の花山天文台を訪問へ、大和さんとその仲間を誘って訪問し、柴田

一成教授の講義を受けて太陽の詳細なスペクトルを観察しました。新婚の篠原さんとデビッドさんも参加してその感銘をパリへ持って行ってくださいました。またその日、京造ねぶたの点灯式が行われ、今年は特に完成度が高いのが印象的で、ブラジャーが学長賞を獲得して話題になりました。

9月13日には京都府立植物園で、ヤノベケンジさんの神様が水を吐くのを見ました。このように作品を見るさまざまな機会がありました。年が明けて下鴨神社の第34回式年遷宮奉祝の八咫鳥大行燈を見た後、やはり今年の大きな話題の一つとなった野村春花さんの草木染めの作品を見たいと思い、アーバンホテル京都二条プレミアムに泊まりました。すばらしい作品のある部屋でさわやかに目覚めることができました。私の泊まった部屋の作品は、柿渋と柘榴と藍で染められたパッチワークでした。

見るだけでなく音楽を聴く楽しみも、私にはたくさんありました。3月24日には東京文化会館で久しぶりに小澤征爾さんが自ら指揮する曲を聞くことができました。同じく小澤征爾さんの二条城での野外コンサートにも参加しました。小林研一郎さんの指揮による第九交響曲も12月27日に東京芸術劇場で今年も聴くことができました。

第九交響曲の歌詞は、シラーの詩である『自由の賛歌』が、フランス革命の直後にラ・マルセイエーズのメロディーでドイツの学生に歌われていたものでした。書き直された『「歓喜に寄せて』』としてものをベートーヴェンが歌詞として引用しました。その解説を読んでいて、そこに「宇宙の神秘に平伏すごとく」という『藝術立国之碑』にある通りの文がありました。また、私の唱ったことのあるベートーベンの『合唱幻想曲』には、次のような歌詞があります。

受けとめよ、汝ら美しき魂どもよ 歓びもて美しき芸術の贈り物を
愛と力が結ばれしとき 人は神の恩寵を授かる

まさに、これらの詩は私たちの学園が目指す「藝術立国」の考えに合っていると想いながら聴きました。

昨年末の常任理事会において、私は井原甲二さんの後を継いで文明哲学研究所の所長代理をつとめるよう任命されました。この研究所は「人類存亡の淵に立つとき、人間の良心を基調とする新たな文明の創造をめざし、文明哲学研究所の設立を決意した」と、その設立宣言にあります。そして「人間とは何か、文明とは何か、人間と文明との関係はいかなるものか」という問いにおいて、それに答えようとするのが使命です。あらためてその設立の精神を確認し、研究所の教育と研究と社会貢献の活動計画を早急にまとめていく所存です。このことに関しても教職員の皆さまのご理解とご協力をお願いします。

芸術の力を信じて、芸術による平和な地球社会の未来を目指して、今年も稔り多い1年としたいと思います。そのために私も力一杯努力することを誓い、念頭の挨拶といたします。

ありがとうございました。